

# Lecture 授業No.88 教科書P.143～

T.Q.「ピョートルとエカチェリーナの国づくりとは  
どのようなものか？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校  
地歴公民科教諭

# 直前予習 T. A. キーワード確認

## 教科書 P.144

T.Q. 「ピョートルとエカチェリーナの国づくりとはどのようなものか？」

1. 西欧諸国
2. ネルチンスク条約
3. 北方戦争
4. クリミア半島
5. 啓蒙専制君主
6. 農奴制

クリックで全て



# 今日の授業ラインナップ。

1. イヴァン4世「雷帝」とシベリア進出
2. ピョートル1世による西欧化
3. エカチェリーナ2世による西欧化

⑧ ロシア T.Q.「ピョートルとエカチリーナの国づくりとはどのようなものか？」

教科書P.143～

(1) **イヴァン4世**「雷帝」

外：シベリアに進出...**イエルマーク**がシビル＝ハン国征服  
ウラル山脈以東 コサックの首長 ※1

(2) ミハイル＝ロマノフ\_1613、**ロマノフ朝**を開く

(3) ステンカ＝ラージンの乱(17C後半)...農奴の反乱 ※2

(4) **ピョートル1世**(大帝)

内：西欧化をめざし自ら訪欧 ※3

外：1 **ネルチンスク条約**(1689)...清との国境 ※4

2 トルコに勝利→アゾフ海北岸取得

3 **北方戦争**(1700～21)...スウェーデン(カール12世)に勝利  
→ニスタット条約でバルト海東岸取得

cf. 新都 **ペテルブルク**建設(←旧都モスクワ) ※5

1/2枚目のスライドはここまで！

→ニスタット条約でバルト海東岸取得

cf. 新都ペテルブルク建設(←旧都モスクワ)

ここから

(5) エカチェリーナ2世\_\_啓蒙絶対君主

内:さらなる西欧化

T.Q.「ピョートルとエカチェリーナの国づくり

but 反動化し農奴制を強化

とはどのようなものか?」教科書P.143~

∴ { プガチョフの乱(18C後半)...農奴の反乱  
フランス革命の影響

外: 1 18C後半、ポーランド分割(3回)

ヤゲウオ朝断絶→選挙王政で弱体化

...プロイセン・オーストリアとともに ∴ ポーランド消滅

※6

cf. 愛国者コシューシコがロシアと戦う ※7

2 トルコに勝利→クリミア半島取得

3 アラスカ・クリル(千島)諸島に進出

18C前半、ベーリングが探検 ※8

※T. A. まとめスライドへ

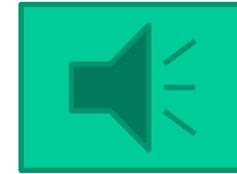
4 ラクスマンを日本に派遣(1792・93)→通商はできず

最後のスライドはここまで!



## コサックとは

農奴制の圧迫をきらってロシアの東南部に逃亡した農民で、これに民衆や没落した貴族が加わって、自由な戦士団を形成した。



※2



④ **ヴォルガ川を進むステンカ=ラーズン** ステンカ=ラーズンはドン=コサックを率いて1670年に反乱を起こした。この反乱は農民の支持を得、ヴォルガ川全域に広まった。

西欧化を図った皇帝  
1672~1725



## ピョートル1世



10歳で皇帝となり、戦争ごっこが好きで、成人してからも自ら砲手としてアゾフ遠征に加わった。1697年にはオランダやイギリスへの使節団の一員となり、オランダの造船所では自らハンマーをふるった。やがて彼はカール12世のスウェーデンを破り、バルト海への出口を確保した。

### ピョートルの西欧視察 (1697~98)

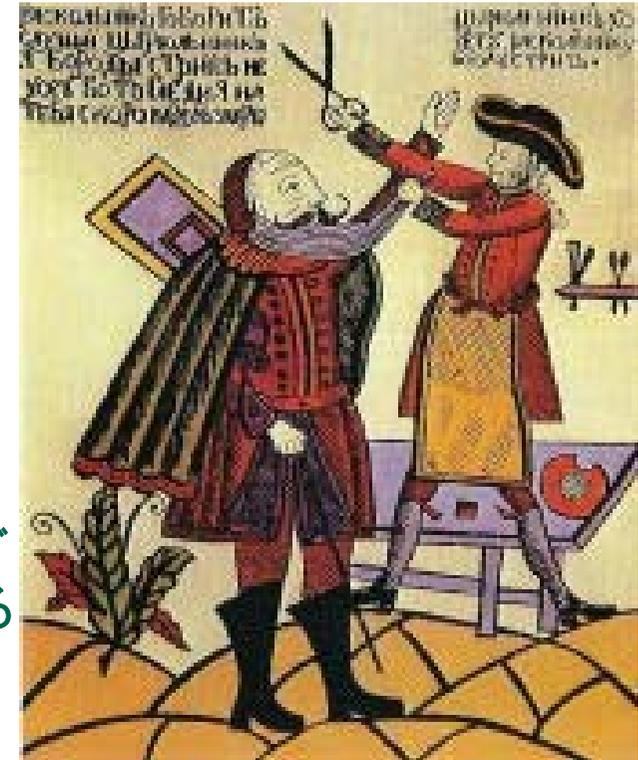


Q. アゴヒゲ税の狙いとは？

→クリック①でAns.

A. ロシアの  
イメージを  
西欧化する  
ため

like  
明治時代の  
文明開化は  
日本のイメージ  
を欧米化する  
ため



クリック②:

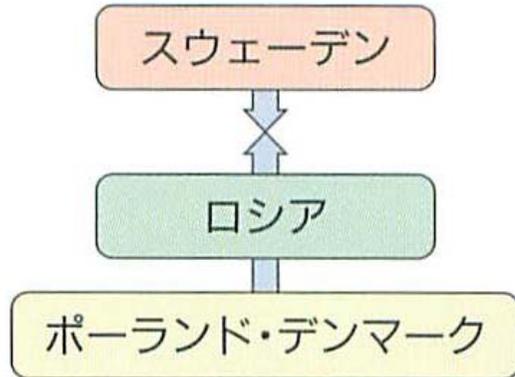
ピョートル1世は、オランダの造船所で職人に変装して、造船技術を自分自身が身につけた。

※4 1689年締結の、**ネルチンスク条約** (は、清が優勢)



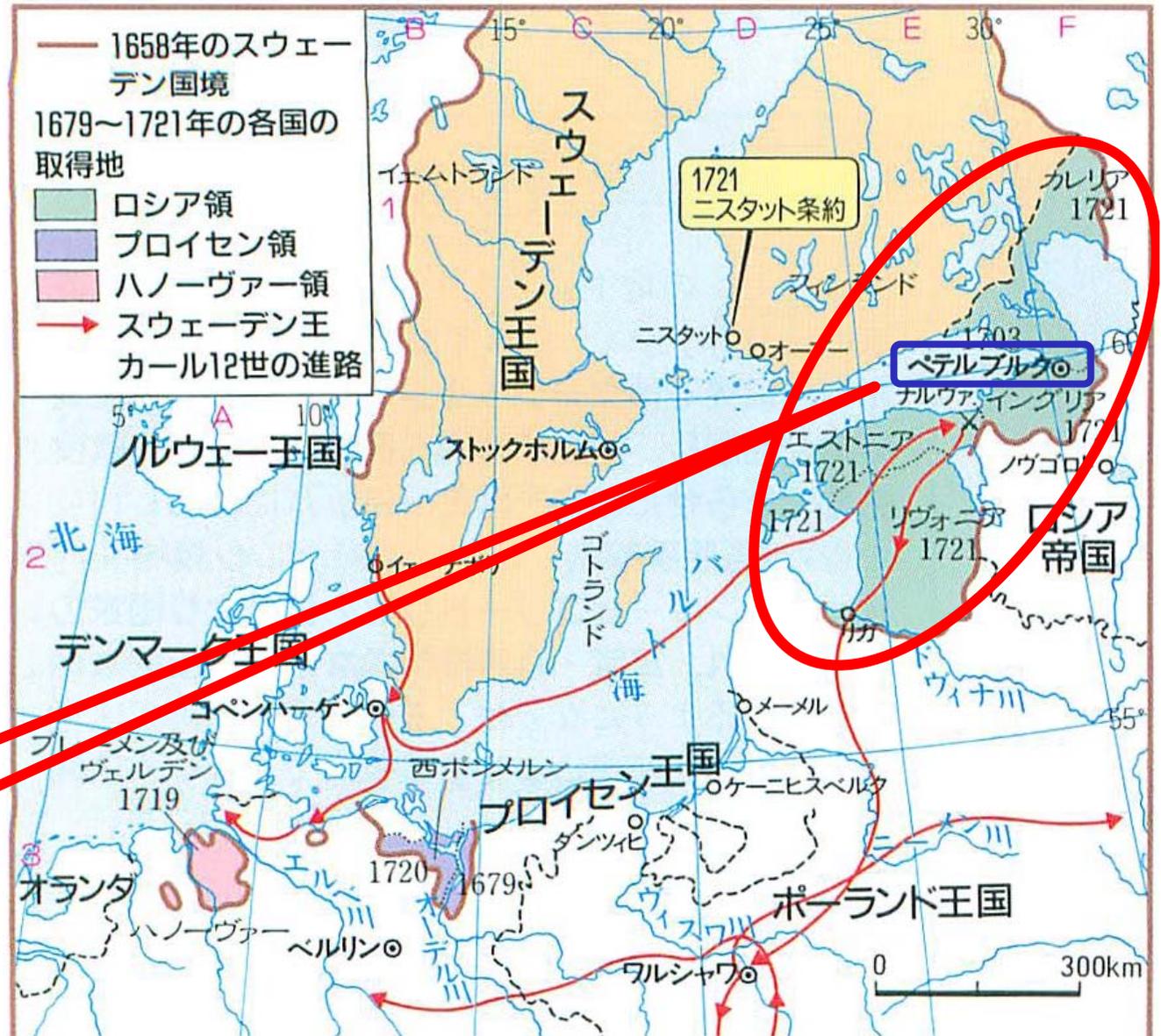
# 北方戦争

バルト海をめぐるカール12世とピョートル1世との戦争



クリックで、

ロシア(ピョートル1世)が  
獲得した領土と  
新都ペテルブルク

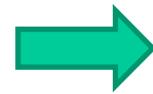


クリック①～③:  
ポーランド分割



クリック④:

毎回の主役  
ロシア女帝  
エカチェリーナ2世



クリック①: 肖像画

クリック②: ポーランドの切手 [※7](#)

⇒ **コシューシコ** (コシチ  
ューシコ) リトアニア  
に生まれ、フランスに遊





# 授業No.088

T.Q.「ピョートルとエカチェリーナの国づくりとはどのようなものか？」

自らも訪欧して西欧化を進めたのがピョートル1世(大帝)で、啓蒙絶対君主として進歩的改革を実施したのがエカチェリーナ2世で、ともに後進国ロシアの強国化に努力し、トルコとの戦いにも勝利した。しかし両者は農奴制を強化し、エカチェリーナ2世の時にはプガチョフの乱が起きた。さらに西欧ではフランス革命も始まって、彼女はロシアに革命が波及することを恐れ反動化した。